

公立・小中学校規模の標準に関する国・県の基準等について

学校教育法施行規則（昭和22年5月23日 文部省令第11号）

第41条 小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、
地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

第79条 第41条から第49条まで、第50条第2項、第54条から第68条までの
規定は、中学校に準用する。

平成20年4月25日付、義教第228号で茨城県教育委員会教育長から出された
公立小・中学校の適正規模にかかる指針において示された「小・中学校の適正規模
の基準は、次のとおり。

小学校・・・クラス替えが可能である各学年2学級以上となる12学級以上が
望ましい。

中学校・・・クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる9学級以上が
望ましい。（国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が
可能。）

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令（昭和33年6月27
日政令第189号）

（適正な学校規模の条件）

第4条 法第3条第1項第4号の適正な規模の条件は、次の各号に掲げるものとす
る。

（1）学級数がおおむね12学級から18学級までであること。

（2）通学距離が、小学校にあってはおおむね4キロメートル以内、中学校にあ
ってはおおむね6キロメートル以内であること。

2 5学級以下の学級数の学校と前項第1号に規定する学級数の学校とを統合する
場合においては、同項同号中「18学級」とあるのは、「24学級」とする。

3 統合後の学校の学級数又は通学距離が第1項第1号又は第2号に掲げる条件に
適合しない場合においても、文部科学大臣が教育効果、交通の便その他の事情を
考慮して適当と認めるときは、当該学級数又は通学距離は、同項第1号又は第2
号に掲げる条件に適合するものとみなす。

複式学級に関する茨城県の基準は、次のとおり。

【小学校】2つの学年を合わせた児童数が、

第1学年の児童を含む場合には、8人以下となった場合

第1学年を含まない場合には、16人以下となった場合。

【中学校】

学年にかかわらず、2つの学年を合わせた生徒数が、8人以下となった場合。